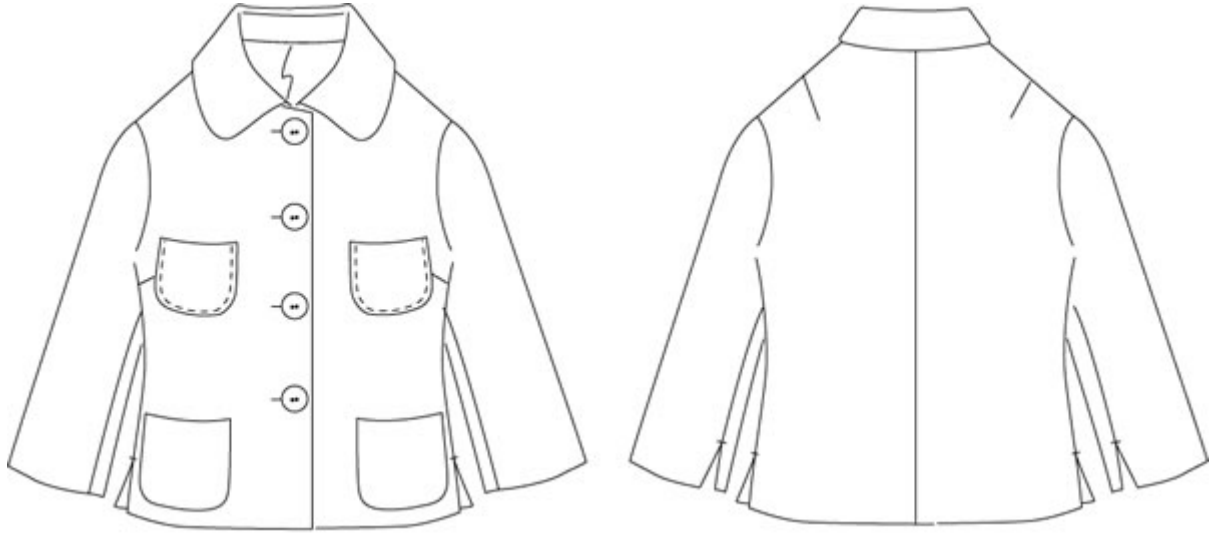


ANNEE-PATTERNS

Sophie

衿付きボレロジャケット



●工程

- ①地直し
- ②裁断、伸び止め貼り、印つけ、ロック始末
- ③表パーツ組み立て
- ④裏パーツ組み立て
- ⑤袖をつける
- ⑥表パーツ、裏パーツを合わせる
- ⑦仕上げ

① 地直し

- ・ご家庭で洗う場合は水通しをして下さい。ドライクリーニングに出す場合、またポリエステル素材の場合は水通し不要です。
- ・布の裏側からスチームアイロンをかけ、ゆがんだ生地をできるだけ直す。
(水染みにならないよう気をつける)

② 裁断、芯・伸び止貼り、印つけ、ロック始末

【裁断】

型入れ図を参考に裁断する。

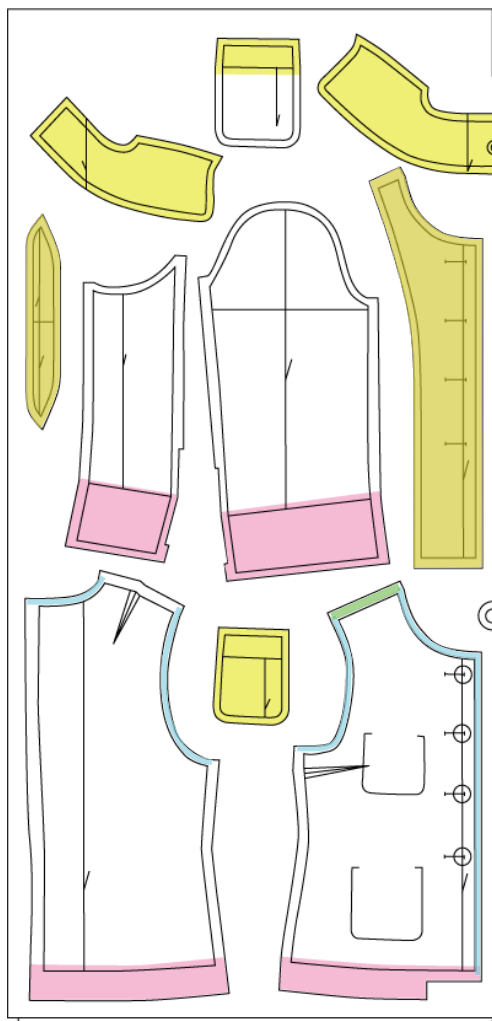
(表地)

1. 前身頃×2
2. 後ろ身頃×2
3. 外袖×2
4. 内袖×2
5. 台衿×2
6. 表衿×1
7. 地衿×2
8. 胸ポケット×2
9. 腰ポケット×2
10. 見返し×2

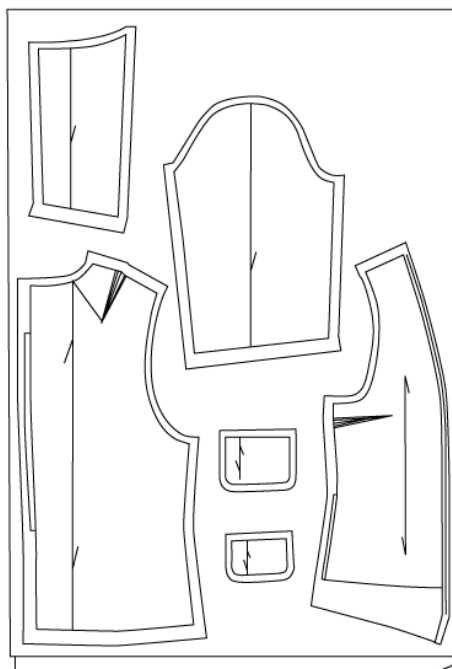
(裏地)

1. 裏前身頃×2
2. 裏後ろ身頃×2
3. 裏外袖×2
4. 裏内袖×2
5. 裏胸ポケット×2
6. 裏腰ポケット×2

表地 140cm 巾 × 140cm



裏地 140cm × 巾 90cm



- … 全面芯
- … 部分芯(身頃の裾、袖口はバイアス裁ちにして貼る)
- … HBテープ(ハーフバイアステープ)
- … STテープ(ストレートテープ)

【芯、伸び止め貼り】

型入れ図の通りに芯を貼る。

接着芯を貼る場合、まず粗裁ちし、接着芯を貼ってから型紙どおりに裁断する。

【印つけ】

ノッチ：合印に3mmほど切り込みを入れる。

きりびつけ：糸印。印位置に正確に刺す。(ポケット位置、ボタン位置など)

ほつれやすい素材は、印はすべてきりびつけ。

【表地のロック始末】

ほつれやすい生地の場合は、ロックミシンでパーツ端をロック始末。(ツイード、荒い織りの生地など)

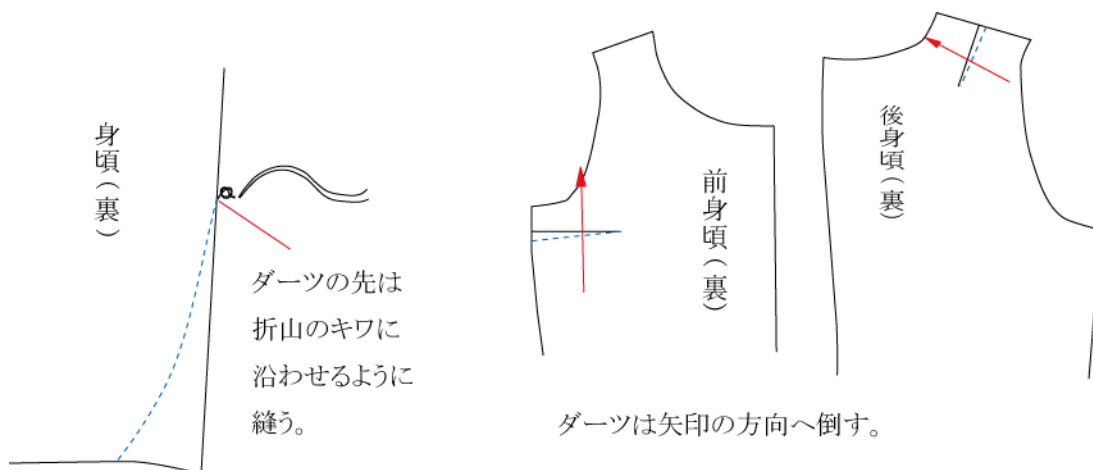
ほつれにくい生地なら、総裏の場合は端始末を特にしないでいい場合があります。

生地によって判断してください。

③ 表パーツ組み立て

【ダーツを縫う】

表地の、前身頃、後ろ身頃のダーツを縫う。



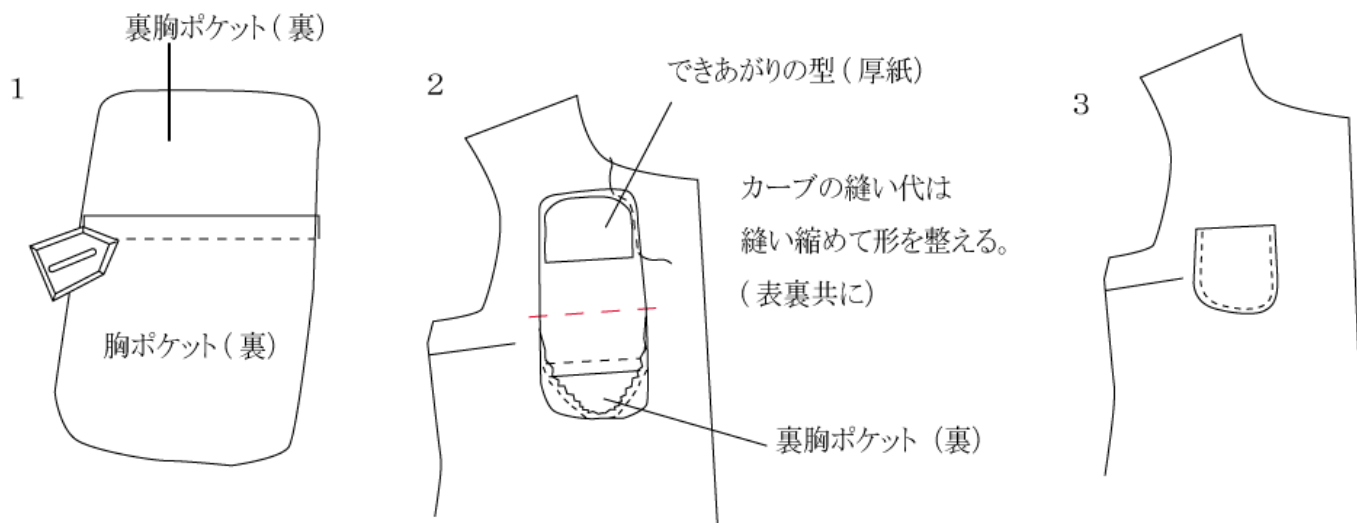
【後身頃】

背中心を縫い代2cmで縫い、縫い代は割る。



【ポケット】

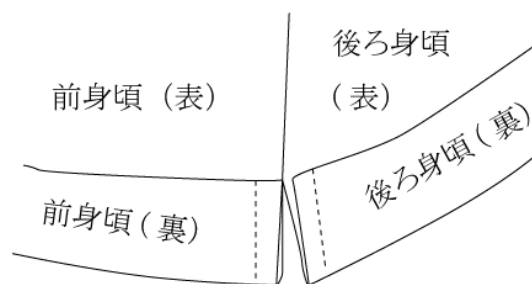
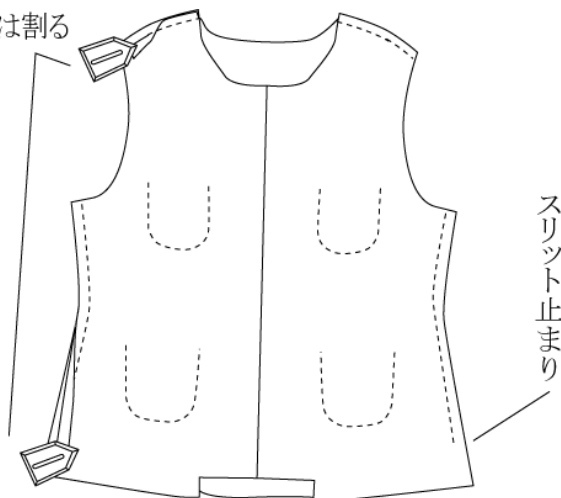
- 1、表、裏ポケットを 1.0 cm で縫い合わせ、縫い代は裏ポケット側に倒す。
- 2、ポケットの裏地を身頃に縫いつけ、カーブの縫い代をザク縫いして縫い縮める。
- 3、表ポケットをかぶせて形を整え、胸ポケットはハンドステッチで、腰ポケットはコバステッチで縫いつける。



【身頃】

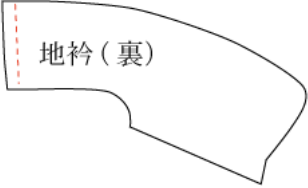
- 1、肩を 1.5 cm で縫い合わせ、縫い代は割る。
- 2、脇も同様に、スリット止まりまで 1.5 cm で縫い合わせ、縫い代を割る。
- 3、裾は 4cm で折り、スリット部分を中縫い。裏返してアイロン。

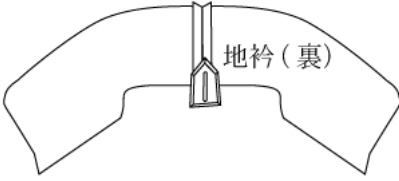
縫い代は割る

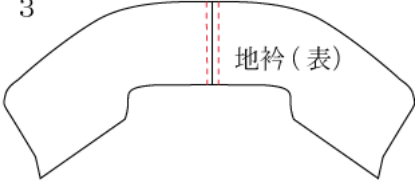


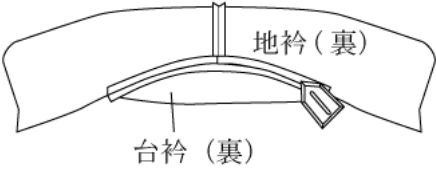
裾は 4cm で折り、スリット部分を中縫いし、裏返してアイロン。

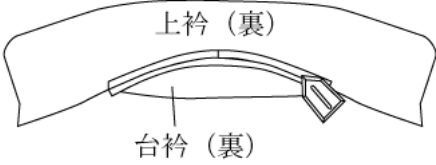
【衿を縫う】

- 1 

中表に合わせ、後中心を1cmで縫う。
縫い始めと終わりは返し縫いしておく。
- 2 

縫い代はアイロンで割る。
- 3 

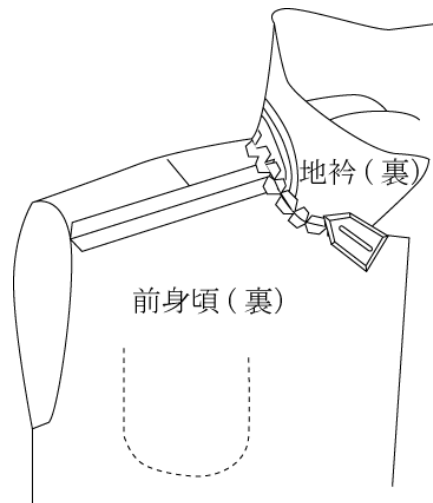
縫い割った中心から両サイド0.15cmのところに表からステッチする。
- 4 

地衿は台衿と1cmの縫い代で縫い、
アイロンで割る。
- 5 

上衿と台衿も同様に、縫い代1cmで
縫い合わせ、縫い代は割る。

【身頃と地衿を縫い合わせる。】

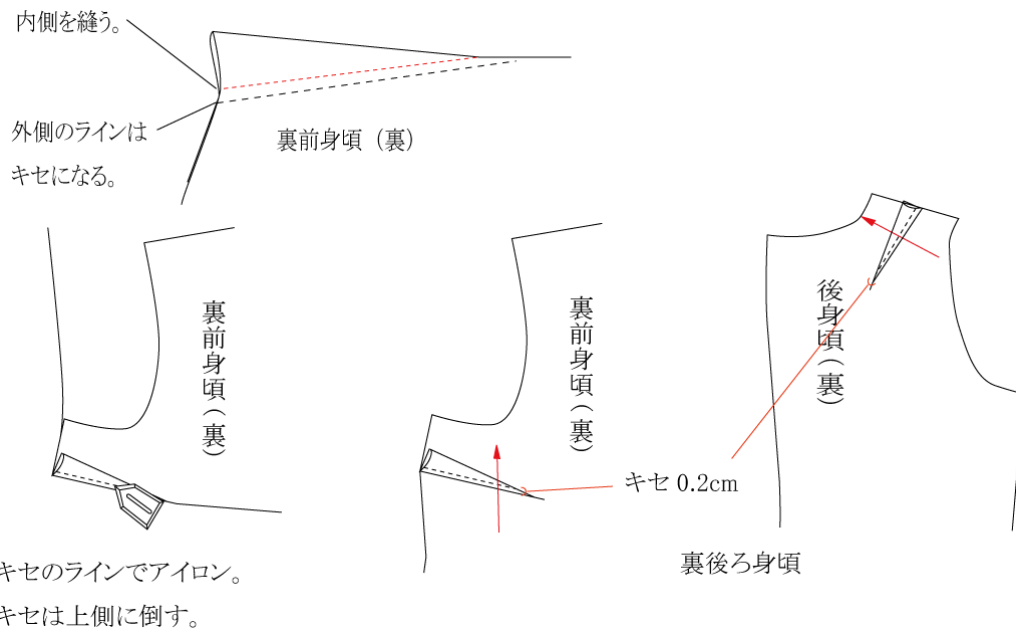
縫い代1cmで身頃と地衿、台衿を継ぐ。衿ぐりに切り込みを入れて、縫い代を割る。



④ 裏パーツ組み立て

【ダーツを縫う】

内側の線で縫い、0.2mm のキセをかける。



<キセの入れ方> ☆裏地の縦線の接ぎにはキセが入ります。

実際の上がり線より 0.5cm 経ち端寄りを縫う。

そして上がり線は縫ってあるかのようにアイロンする。

こうして運動量を確保します。

表パーツの上がり線でアイロンする

～裏地にキセアイロンをかけるのが難しいという方～

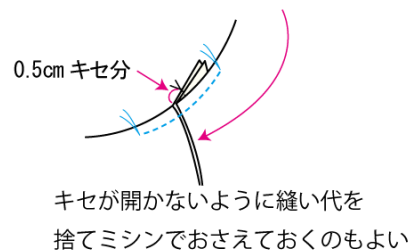
出来上がり線 (表パーツの線) を粗ミシンで縫い

(できればしつけ縫い)、

キセをかけて本縫いします (0.5cm 縫い代側を縫う)。

すべて完成したらその粗ミシンをほどいてください。

多少針跡は残りますが、綺麗にキセがかかります。



【背中心を縫う】

上 5cm と下 10cm は縫い代 2cm で縫い、(キセなし) あとは縫い代 1cm で縫う。(キセ 1cm) アイロンで割る。



裏後身頃を中表にあわせて、
後ろ中心を縫う。

開いてアイロン。

縫い代 1cm で縫った部分だけ、1cm のキセが入る。

【裏前身頃と見返しを縫う】

縫い代 1cm で縫い、縫い代は身頃側に倒す。



【肩を縫う】

前身頃と後ろ身頃の肩を、縫い代 1.5cm で縫い、縫い代は後ろに倒す。キセはなし。

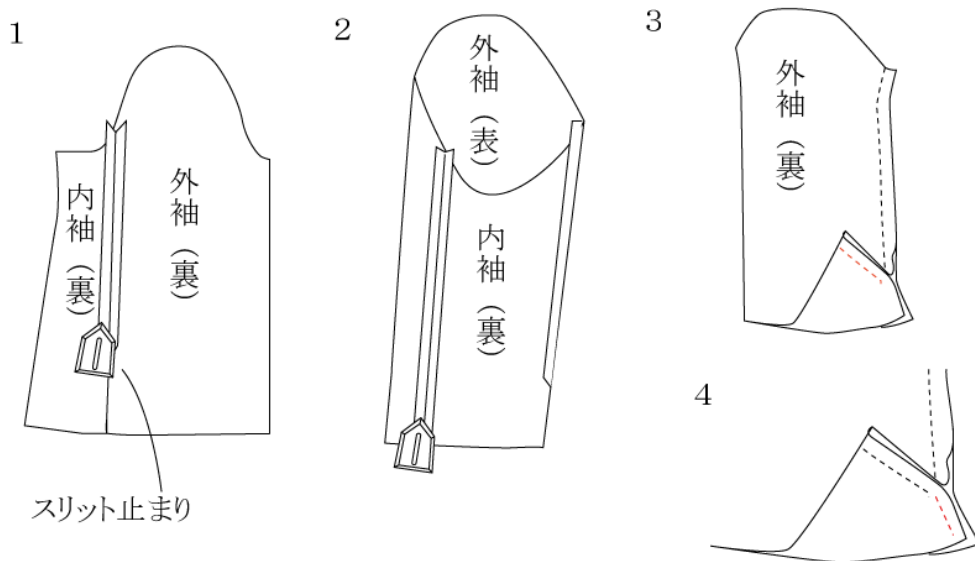
【脇を縫う】

縫い代 1cm で縫い、0.5cm キセをいれてアイロンで後ろに倒す。

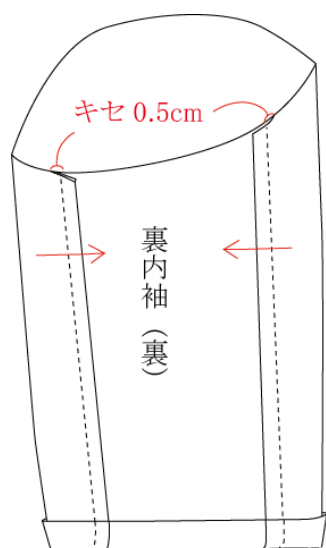
⑤ 袖をつける

【袖を組み立てる。】

- 1、内袖と外袖を 1.5 cm の縫い代でスリット止まりまで縫い、縫い目は割る。
- 2、もう片側を縫い代 1.5 cm で縫う。縫い代は割る。
- 3、スリット部分を中縫いする。
- 4、残った縫い代の部分を縫う。



裏袖も同様に縫う。縫い代は 1cm で縫い、0, 5cm キセをかけて裏内袖側に片倒しする。
袖口を 3cm に折っておく。



【袖付け】

中表で縫った部分を外側が表になるようにひっくり返す。
袖山の縫い代側に粗ミシンを 2 本かける。(端から 0.4cm と 0.7cm)
後でイセをいれるので糸端は長めにしてカットする。



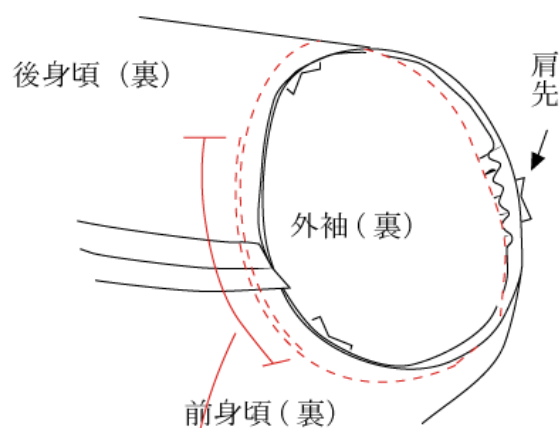
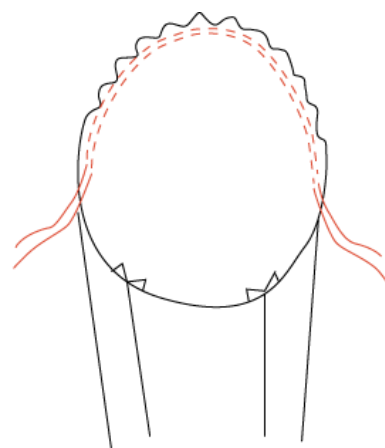
粗ミシンを 2 本一緒に引っ張って袖山の形を作る。



アイロンでイセを落ち着かせる。



中表になるように身頃に袖をセットして合印が合うようにピンで身頃と袖を固定する。
このときにイセを合印～合印の間できれいに分散させる。



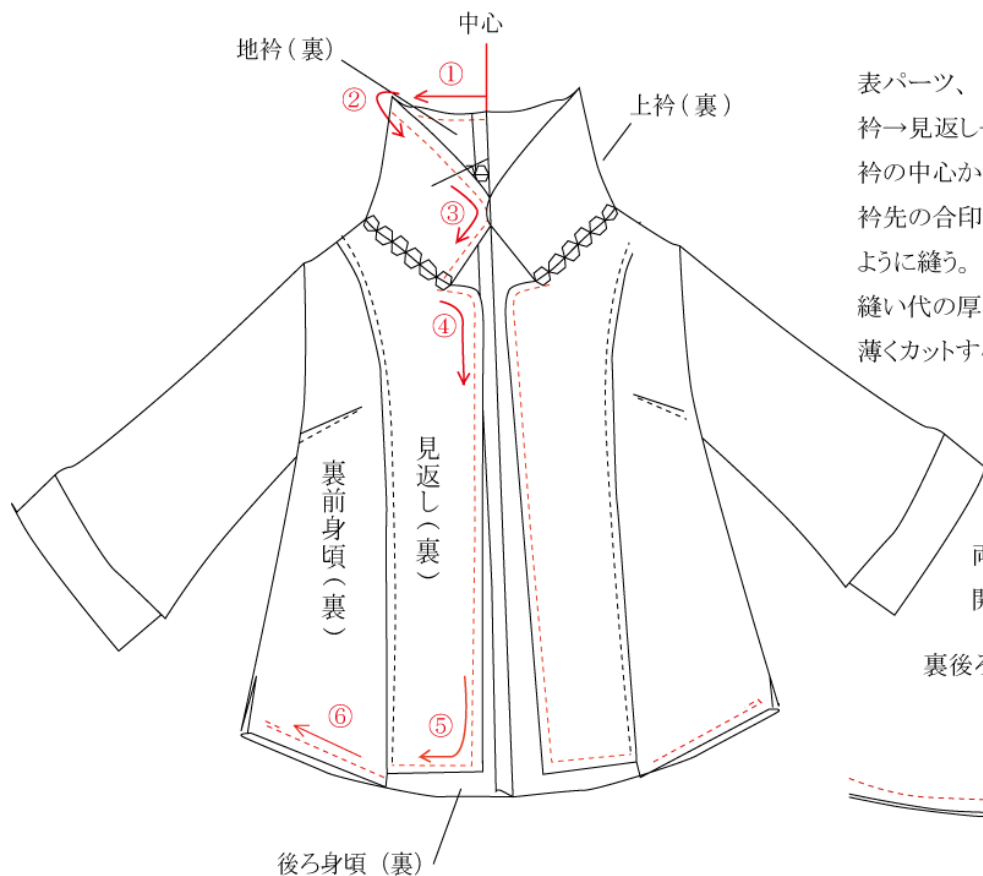
袖底は 6cm ずつくらい縫い目を重ねて縫う。

縫い代 1cm で身頃と袖を縫い合わせる。
袖の下側は同じところを二度縫いする。
(袖裏はキセが抜けないように気をつける。)

縫うときは袖を見ながら目打ちでイセを抑えながら縫うと良い。
身頃側の縫い代に気をつけて、袖の左右を間違えないように。

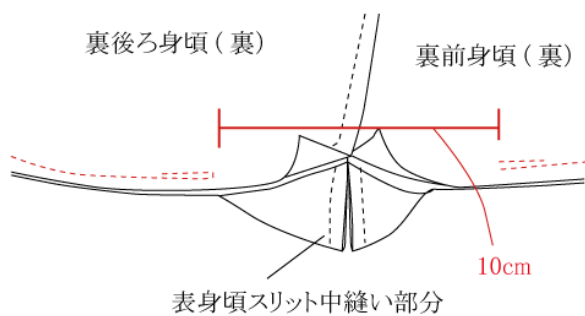
⑥ 表パーツ裏パーツ合体

【袖口を縫う】

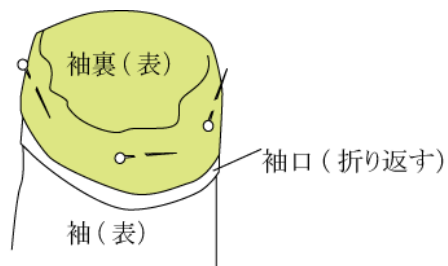


表パーツ、裏パーツを中表に合わせ、衿→見返し→裾を縫い合わせていく。衿の中心から左右に分けて縫う。衿先の合印をきちんと合わせ、ずれないように縫う。縫い代の厚みが気になるところは、片側を薄くカットするときれいに仕上がる。

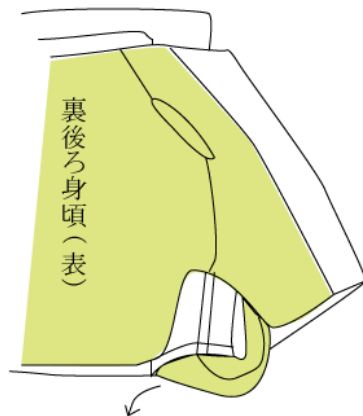
両脇のスリットの前後 10 センチを縫わないで開けておく。(前後は返し縫い)



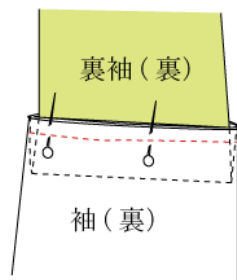
【袖口を縫う】



① 袖がねじれないようにピンで仮止め



② 袖を引っ張り出す。



③ 縫い代を合わせて
ピンでとめ直す。

袖口を出来上がった状態にしてみる。

(裏地が表地の中に通った状態)

袖がねじれないように整えてから袖をめくって、

袖口と裏地をピンで仮止めする。(①)



身頃の裾の裏地と表地の中から袖を引っ張り出す。

(①で仮止めしたピンが外れないように気をつける。)(②)



引っ張り出した袖口と裏地のピンを、縫いやすいように

中表に2枚重ねてピンをとめ直す。(③)



縫い代 1.5cm で縫い合わせる。



袖を表に返して元に戻す。

もう片方の袖も同様に縫う。

これで袖がつながり、袖口に 1cm のキセが入る。

仕上げ

【中綴じ】

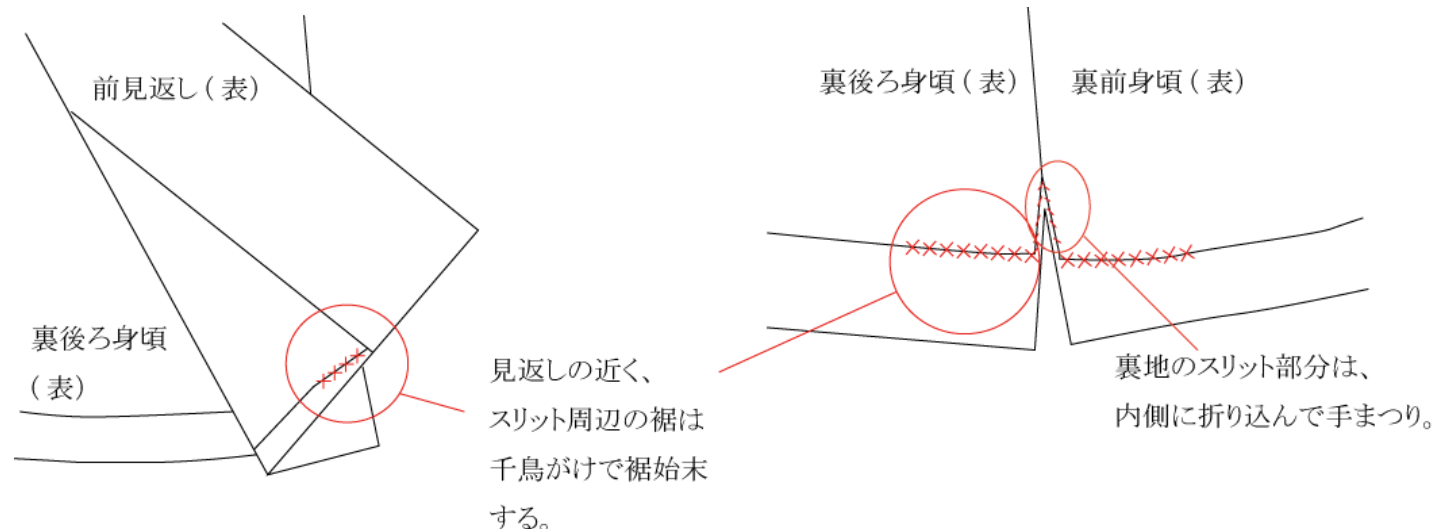
裏地を裾からめくって、衿の縫い代、両肩、脇、袖下（肘下くらいの所）を仕付け糸2本どりでゆるく中綴じする。

中綴じすることで衿や身頃が浮かないようになる。

袖口は縫い代の端を表側に響かない様に表袖に軽くまつり付けておく。

【裾始末】

裾をまつる。 表身頃と裏身頃の返し口（スリットの前後）は、裾を手まつりでまつって閉じる。



【ボタンホール、ボタンつけ】

出来上がった表身頃に型紙をのせて、ボタンホールの位置をチャコペンなどで印付けする。

ボタン位置あたりを粗くしつけして、見返しと表地を固定する。

指定の位置にボタンをつける。

※ボタンホールは専門の加工屋さんに出すのがお勧めです。

印は見返し側に。ボタンの直径プラス3～4mmがホールの大きさです。

【アイロン】

仕上げアイロンをかけてできあがり。